

略歴と主要著作等目録

(ギリシア語・文学に関係するものを中心に編集した。)

略 歴

- 1964年 広島大学文学部文学科言語学卒業
1966年 広島大学大学院文学研究科修士課程言語学専攻修了
広島商科大学 (現広島修道大学)助手
1970年 広島大学大学院文学研究科博士課程言語学専攻
単位取得退学
1970年 6月から10月 ドイツ・ケルン大学古典学研究所留学
1973年 広島修道大学助教授
1976年 広島大学総合科学部助教授
1992年 同上教授
2001年 広島大学大学院文学研究科応用文化学講座併任教授
2005年 広島大学総合科学部および同上定年退職

I 著 作 ・ 翻 訳

1. ハラルト・ヴァインリヒ『時制論』脇阪豊・大瀧敏夫・竹島俊之・原野昇、
共訳 紀伊国屋書店 1982年
2. ハラルト・ヴァインリヒ『言語とテキスト』脇阪豊・川島淳夫・大瀧敏夫・
竹島俊之・中沢三津子・原野昇・小林英信・曾田紘二・能登恵一・杉谷眞佐
子・吉田光演、共訳 紀伊国屋書店 1984年
3. ポリュビオス『世界史1』第1巻～第6巻 龍溪書舎 2004年
4. ポリュビオス『世界史2』第7巻～第18巻 龍溪書舎 2007年
5. ポリュビオス『世界史3』第19巻～第39巻 龍溪書舎 2007年

II 論文

1. 「ポリュビオス『歴史』の中に見出される格言的表現について」『ニダバ』西
日本言語学会 第1号 1972年
2. 「ルターの言語の書記形式と音韻組織について」『ニダバ』第3号
1974年
3. 「ホメーロスに於ける未完了過去と直説法アオリストの用法に関する一考察」
『ニダバ』第9号 1980年
4. 「古典ギリシア語の構造についての一考察」『関本至先生古稀記念論文集』溪
水社 1983年
5. 「現代ギリシア語の瞬時態未来と継続態未来についての一考察」『プロピレア』
第2号 1990年
6. 「古典ギリシア語の統語論上及び構文論上の特性について」『吉川守先生御退
官記念言語学論集』 溪水社 1995年
7. 「古典ギリシア語の構文論研究 — ポリュビオス『歴史』における συμβαίνειν
の用例の分析に基づいて —」『プロピレア』第8号 1996年
8. 「古典ギリシア語の構文論研究 (2)」『プロピレア』第14号 2002年
9. 「古典ギリシア語の形容詞の収斂的語順と展開的語順について」
『プロピレア』第15号 2003年

III 小論・研究ノート・報告

1. 「第一回シンポジウム — 日本に於けるギリシア文化研究」
『プロピレア』第4号 1992年
2. 「ポリュビオスの『歴史』の世界」『プロピレア』第10号 1998年
3. 「ディオドロス『世界史』」『プロピレア』第12号 2000年
4. 「ヨハネ伝における3の概念について」『プロピレア』第15号 2003年

IV エッセイ

1. 「ΠΛΟΠΥΛΛΙΑ について」『プロピレア』第1号 1989年
2. 「古典ギリシアの遺跡を歩いて」『プロピレア』第1号 1989年
3. 「古典ギリシア語の学び方」『プロピレア』第10号 1998年

V 発表

(講演、シンポジオンを含む)

1. 「古典ギリシャ語の統語論上および構文上の特性について」
第6回ギリシア語・文学研究発表会 1994年7月9日
2. 「古典ギリシャ語の教授法」
第7回ギリシア語・文学研究発表会 1995年7月8日
3. 「構文論について」
西日本言語学会第26回講演・研究発表会 1996年
4. 「ポリュピオスの政体循環論について」
第13回日本ギリシア語ギリシア文学会研究発表会 2001年9月29日
5. 「紀元前2世紀頃のローマ時代の出版事情について」
第14回日本ギリシア語ギリシア文学会研究発表会 2002年9月28日
6. 「現代の日本の大学において古典ギリシア語・ラテン語を教える意義について」
第14回日本ギリシア語ギリシア文学会研究発表会 2002年9月28日
7. 「ポリュピオスの原典資料を通して見るポエニ戦争」
第16回日本ギリシア語ギリシア文学会研究発表会 2004年10月16日
8. 「ヘレニズム王朝の具体的様相について：マケドニア王朝、プトレマイオス王朝、セレウコス王朝、アッタロス王朝」
第17回日本ギリシア語ギリシア文学会研究発表会 2005年10月29日